

ひきこもる若者/オトナの困りごと ～多様なアプローチを手がかりに～

ゲストスピーカー(当日のスピーチ順):

- | | |
|------------------------|--------|
| <1>NPO法人ピアサポートネットしづや | 石川隆博さん |
| <2>NPO法人教育サポートセンターNIRE | 中塚史行さん |
| <3>公益社団法人青少年健康センター | 倉光洋平さん |
| <4>しんじゆく若者サポートステーション | 櫻山清子さん |

コーディネーター: 明治学院大学社会学部教授 八木原律子

<2>NPO法人教育サポートセンターNIRE 中塚史行さんより

NIREの子ども支援事業

個別の学習サポート

- ・放課後学習サポート
- ・夏休み宿題サポート
- ・冬休み宿題サポート



社会体験プログラム

- ・田んぼ体験
- ・子どもカフェ企画
- ・春の遠足



宿泊イベント

- ・夏のキャンプ
- ・春のスキー教室



NPOを立ち上げ、10年少したちます。出発点は、子どもたちとの関わりで、最初は小学生が中心でした。クラスでなかなか理解されず、中には手がかかるので排除される発達障害の子どもたちを中心に学習サポートとして放課後に勉強を見ることからスタートしました。私たちが彼らからたくさん教えてもらいました。

読めない、書けない、うまくしゃべれないという子たちです。読めなければ読めないでいい、書けなければ書けないでいいと言いがちですが、「おまえ、先生なんだから何とかしろ」と言われます。そうかなと思ひ、子どもに勉強させてもらったり、子どもたちと一緒に考えたりしています。子どもたちは、本当に学びたい、成長したいと思っていると感じます。

発達課題と言いがちですが、私が彼らを捉えるときは、発達要求があると考え、接しています。彼らの要求にどう応え何ができるだろうかと考え、事業は大きくなり、勉強だけでなく怒られずに楽しく過ごす一日が時々あるとよいと外に出る企画もします。

宿泊のイベントでスタッフに「普段怒られてばかりの子たちだから、宿泊の3日間は、何かをしでかすこともあるだろうけど一度も怒られない時間をたっぷりつくって送り返してあげよう」とよく話します。そういう目標で取り組んでいます。

NIREの若者支援事業



アウトリーチ

- ・家族支援
- ・訪問（アウトリーチ）
- ・外出支援



フリースペース

- ・レクリエーション
- ・グループ活動
- ・宿泊イベント



社会体験活動

- ・ボランティア活動
- ・田んぼ作業
- ・仕事体験



子どもたちも大きくなり、発達障害だけでなく、ひきこもりやニート、フリーター、貧困の問題もあり、どう暮らしていくかも大きな問題です。

東京都から声をかけていただき、5年ほど前、障害のあるなしに関係なく、学齢期後もつながっていただける若者支援をスタートしました。フリースペース中心で、そこに踏み込めない子に声をかけに行ったり、個別に時間をつくっています。彼らとの出会いを大事にしながら、人とのつながりを少しずつ広げていける活動を進めています。

私もよくわからなかったので、彼らを社会に送り出す/つなげるという意識が強く働いていました。彼らと接し一緒に活動を進める中、彼らが本当に孤立していることを知りました。

私たちにできることは、彼らを送り出したりつなげたり、社会に適応させることではなく、彼らの周りに社会をつくることと最近考えるようになりました。社会から断絶、排除されている彼らの周りに社会をつくり、彼らを中心に周りが広がる活動ができればいいと思います。

就労支援とは言っていません。無理に働けとか外に出るとか、私はあまり言いません。むしろ居場所に来る子たちには、「働きに出ると来られなくなるからね、いいんだよ」と言います。不思議と彼らは何かバイトを探して働いてみたいと言いますが、私はそれでもめげずに、「いや、バイトをするのは構わないけど、居場所の日だけはバイトを休みにしてくれ」と言ってつながりを切らさずにしています。

彼らもエネルギーが出たら外に出たいと思うし、自分の社会を自分の力で上げたいと思う力が芽生えます。そうなったらうれしいし、そこで疲れたら、また帰ってこられるようにしたいです。こういう活動は出口の問題で、「出口が見えない」という言い方もありますが、私たちは入り口と出口の中間の位置にいるわけでもありません。生まれてからこの地域で育ち、ずっと一緒に居る仲間として捉えていきたいと思っています。

目の前の子どもや若者たちとのつながりや活動をつくってききましたが、たまたま品川区の目に留まりました。私は品川区出身で、品川区で育ち、いろいろな人に支えながら品川区で活動し、行政もよく理解してくれました。

今まで子どもや若者の活動には利用料や参加費などお金がかかり、参加のハードルが上がります。若者たちも本当にお金がなく、利用料の捻出が大問題でした。行政が協力してくれることになり、区が責任もってお金を出し場所も確保してくれるようになりました。

当団体だけでなく、品川区や大田区の活動団体でネットワークをつくり、ネットワークに委託する方法で、誰でも無料で参加できるフリースペースが週に1回月曜日に開所しました。

子ども若者応援ネットワーク事業

2016年地域NPO団体ネットワークを設立

- ★子ども若者応援フリースペース事業
「安心できる・自信がつく・仲間がいる」
- ・毎週月曜日10:00~19:00
(放課後・仕事帰りでも立ち寄れる)
- ・利用料は無料
- ・困難を抱える子どもから若者まで
(オープンアクセスの場)
- ★子ども若者応援セミナーの開催
- ・年に一回/貧困・虐待などをテーマ



皆さんもぜひ寄ってください。区の委託事業なので区民対象ですが、事情も、どこから来たかも問わないので誰でも参加できます。遠い子は、都内の他区や他市から来ます。

開始時は10時から午後4時まででしたが、不登校の子やひきこもって外出できない若者たちは朝が苦手です。お昼ごろやっとな起きて来ると、あっという間に終わってしまいます。何とかしなければと区にお願いし、現在は夜7時まで開けています。不登校の子たちは、学校に復帰しても放課後に寄れるし、仕事に行くようになった若者は、帰りに寄れる居場所になっています。

フリースペースの風景



開始時10人くらいからみるみる増え、普段20人くらいです。先日ついに30人を超えました。調理台が3つあり調理もできます。社会福祉協議会からの食料（カップラーメンやインスタント食品が多い）でおなかを満たすこともできます。区から災害用のアルファ化米をたくさんもらい、食べたり持ち帰ったりしています。

卓球やゲームをしたり、勉強している子もいます。料理をしたり、楽器をやりたいとギターを持ってきたり、10代から20代、30代、40代まで来ています。この施設は、高齢者施設と同じ建物なので何かにぎやかだと70歳のおじいちゃんがやってきたくらい、にぎやかです。

こんなに元気だったら学校や仕事に行けるのではないかと思われがちですが、それぞれいろいろな事情があります。話を聞くと学校でうまくいかずに不登校になり、仕事に出ても長続きしないという子たちが多いです。

月曜以外の日をどう過ごしているのか、今後のことについてなど話を進めています。私たちとしては、この地域で生まれ育った子どもや若者たちが、家庭の事情や本人の特性に左右されないで成長でき、ずっと住み続けられる居場所にしていきたいという思いで行っています。

★イベントのお知らせ★



★第13回全国若者・ひきこもり

協同実践交流会inとやま★

～語り合おう 私の生き方
支え合う 多様な生き方～

2017年12月9日（土）、10日（日）

富山大学五福キャンパス

▶全体シンポジウム

▶9つのテーマ別分科会

今、同様の思いをもつ居場所や支援が全国に広がっています。どのように場をつくったらよいか、いろいろな実践や悩みについて交流しようと、毎年1回全国交流会をしています。

2017年は12月9日（土）10日（日）に富山県で行われます。富山県にひきこもっている若者たちがたくさんいることや、その親たちがネットワークをつくっていることを私も初めて知りました。

全国から集まり実践を交流し合います。支援、被支援の枠を超えた場づくりはどうあるべきかがテーマです。「協同実践」と呼んでいます。ぜひご参加ください。500人を超えるよう、仲間たちを集めて語り合おうと企画をしています。

子どもや若者たちの場が全国に広がるとよいという思いをもち、また地元に戻り地域に根差した活動を進めたいと思います。